今、注目の人

今号は片山財務大臣、小野田経済安全保障担当大臣という高市内閣を支えるお二人にお話を伺った。お二人とも学生時代や子どものころからの夢を実現し、政治家としてますます活躍の場を広げている。実現したい政策や戦略などを語っていただいた。

小野田 紀美（おのだ きみ）

参議院議員・内閣府特命担当大臣（クールジャパン戦略）

profile　2016年7月、参議院議員初当選。以降、法務大臣政務官、防衛大臣政務官を歴任。2025年10月より現職。経済安全保障担当、外国人との秩序ある共生社会推進担当、内閣府特命担当大臣（クールジャパン戦略、知的財産戦略、科学技術政策、宇宙政策、人工知能戦略、経済安全保障）を拝命し、各分野の施策推進に尽力。

日本文化を世界に。コンテンツの海外進出や人材育成を全力でサポート

――政治家になった経緯を教えてください

私は小学生の頃から政治家になりたいと思っていました。曲がったことや理不尽が大嫌いだったので、「正義の味方になって悪と戦うんだ！」と決意していたんです。中・高・大学と政治家を目指し続けました。当時は、親が政治家でもない自分が議員になる現実的な方法がわからず、「タレント議員しか道はない」と考え、モデルやミスコンに出るなど必死にもがいていました。一人親世帯のため大学時代はバイトにも励み、その後、塾講師やゲーム制作などのさまざまな企業で働きながら政治家の道を模索し、2011年地方議員に初当選しました。それから参議院議員を務め、現在クールジャパン戦略等を担当する大臣に就任しました。

――クールジャパン戦略について教えてください

クールジャパンとは海外から見て魅力的と感じてもらえる日本文化などです。最近、海外で大きな影響力を持っているのはアニメや漫画、ゲームといったコンテンツです。

先日、CJPFアワード受賞者のサウジアラビアの方から「コンテンツは日本の石油です」と言われました。しかも、石油のような有限ではなく、次々と生まれてくる無限の財産だというのです。

また、海外の方に「日本にいろんな人が頭を下げてくれますが、政治家はそうは行きません。まずは有権者に選んでもらわなければならず、その厳しさが政治家の足腰を鍛えてくれるのだと実感します。

――財務大臣として実現したい政策を教えてください

現在、高市内閣が掲げるのが「責任ある積極財政」です。国民が将来に夢を持てるよう、必要な分野にはしっかり投資を行う方針です。今の政策には夢が足りないという声に応え、長年削減されてきた国立大学の運営費交付金を増やし、医療や介護の報酬も引き上げました。また、再び世界で勝つためには、AIや量子コンピュータ、宇宙分野などへの投資が不可欠です。イーロン・マスク氏のような突出した才能が生まれる環境を作り、日本発の技術で世界を席巻する。そんな夢を実現する財政運営を行います。加えて、財政の状況を正確にお伝えすることも重要です。正確なデータを全てテーブルに乗せ、多角的な議論ができる土壌を作りたいと考えています。

また、テクノロジーの進化は早く、常に最先端投資を続けなければトップには残れません。少数の天才が富を総取りするような時代において、それをどう分配するかが政治の役割となります。将来的には一家に一台ロボットが普及し、苦役は機械が担う時代が来るでしょう。そのとき、人間はスポーツや芸術も含めて、独自の「生きがい」を追求する社会になると思います。重要なのは「価値観」と「知恵」です。皆が100歳まで健康で生きられる基盤を作り、技術と共存しながら誰もが幸福を感じられる国を目指します。

――学生へのメッセージをお願いします

今の時代、一つの専門分野や縦割りの知識だけでは通用しません。学部にとらわれず、大学という環境を大いに活用して学び続ける貪欲さを持ってください。これで十分と思わず、他学部の授業や留学などに積極的に挑戦してください。その経験が皆さんの将来の武器になります。

（N高等学校3年　服部将昌／武蔵野美術大学1年　石井生成）

武蔵野美術大学1年　石井生成／法政大学3年　島田尚和／城西国際大学2年　渡部優理絵／東京家政大学2年　篠田陽菜乃／N高等学校3年　服部将昌

片山 さつき（かたやま）

参議院議員・財務大臣

profile　1959年、埼玉県生まれ。東京大学法学部卒業後、大蔵省（現・財務省）に入省。広島・海田税務署長、G7サミット代表団員 金融機関監督管理職、横浜税関総務部長、主計局主計官等女性初のポストを歴任。2005年、衆議院議員に初当選。2018年、内閣府特命担当大臣就任。2025年10月、日本憲政史上初の女性財務大臣に就任（金融担当大臣兼務）。

「責任ある積極財政」で国民が将来に夢を持てるような国になれるよう全力で活動

――政治家になったきっかけを教えてください

学生時代から社会の役に立つ仕事をしたいという強い思いがありました。大学卒業後は大蔵省（現・財務省）に入省し、主税、関税、銀行、証券、国際金融、そして主計局の主査及び主計官など省内の主要な部局をほぼ全て経験しました。今思えば、政治家になるには理想的なキャリアを歩めたと考えています。その後、2005年に政界へ入るのですが、一度落選していますが、官僚時代は黙っていてもそんな夢を実現する財政運営を行います。加えて、財政の状況を正確にお伝えすることも重要です。正確なデータを全てテーブルに乗せ、多角的な議論ができる土壌を作りたいと考えています。

また、テクノロジーの進化は早く、常に最先端投資を続けなければトップには残れません。少数の天才が富を総取りするような時代において、それをどう分配するかが政治の役割となります。将来的には一家に一台ロボットが普及し、苦役は機械が担う時代が来るでしょう。そのとき、人間はスポーツや芸術も含めて、独自の「生きがい」を追求する社会になると思います。重要なのは「価値観」と「知恵」です。皆が100歳まで健康で生きられる基盤を作り、技術と共存しながら誰もが幸福を感じられる国を目指します。

――学生へのメッセージをお願いします

皆さんに伝えたいのは「好きに生きてください！」ということです。小さいころ、政治家になって正義の味方になりたいという夢を語ったとき、「馬鹿じゃないの？」「無理だよ」と周りに何度も言われました。しかし、私は実際に今、政治家になっています。ですから、誰かが言う無理という言葉に捉われることなく、自分のやりたいことをやり切っていただきたいです。

（東京都立大学3年　坂倉彩月）

昭和女子大学2年　阿部瑠璃香／城西国際大学2年　渡部優理絵／関西外国語大学2年　石川遼／東洋大学4年　太田楓華／情報経営イノベーション専門職大学2年　山田千遥／法政大学1年　渡辺碧羽／東京都立大学3年　坂倉彩月／東京女子大学2年　浮田梨紗／東京家政大学2年　篠田陽菜乃／日本大学1年　太田萌日／情報経営イノベーション専門職大学1年　襟川歩希